2022年９月３日に開催した「魚津水族館フォーラム」において、パネルディスカッション前の休憩時間や閉会後に、アンケートにご協力いただきました。

いただいたご意見の一部をご紹介いたします。

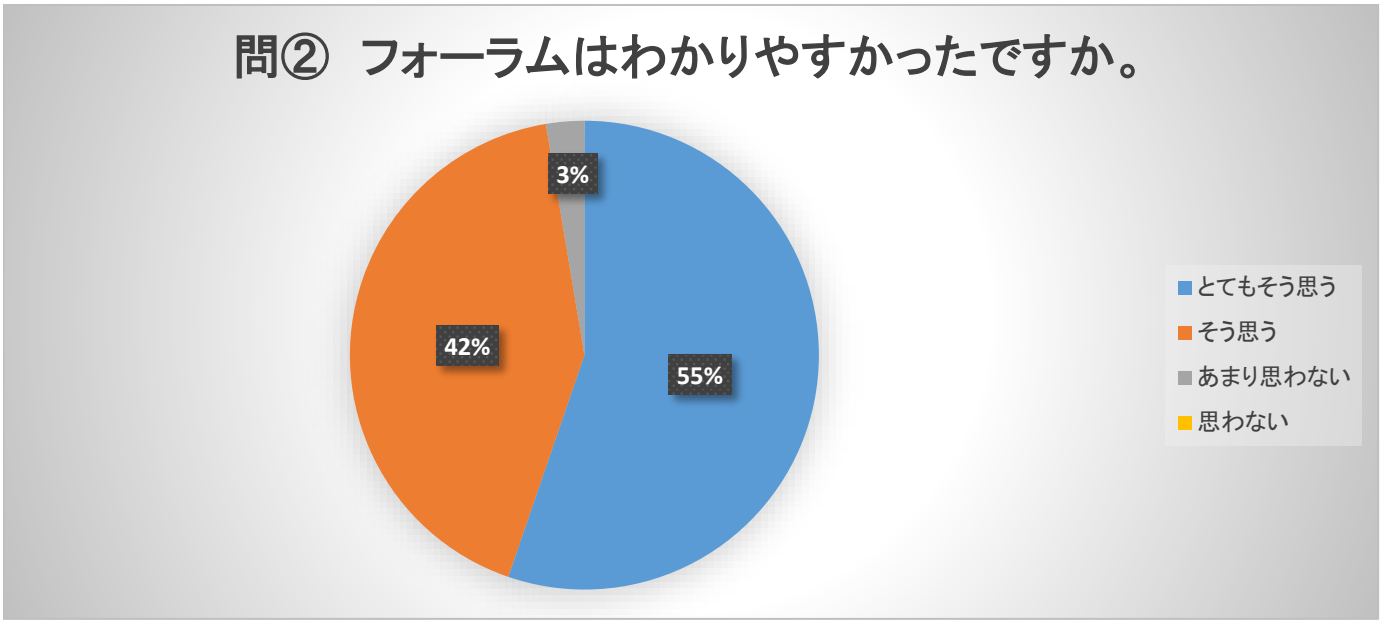
問①については、関係部署と協議しながら、お答えできるものについては今後回答させていただく予定です。

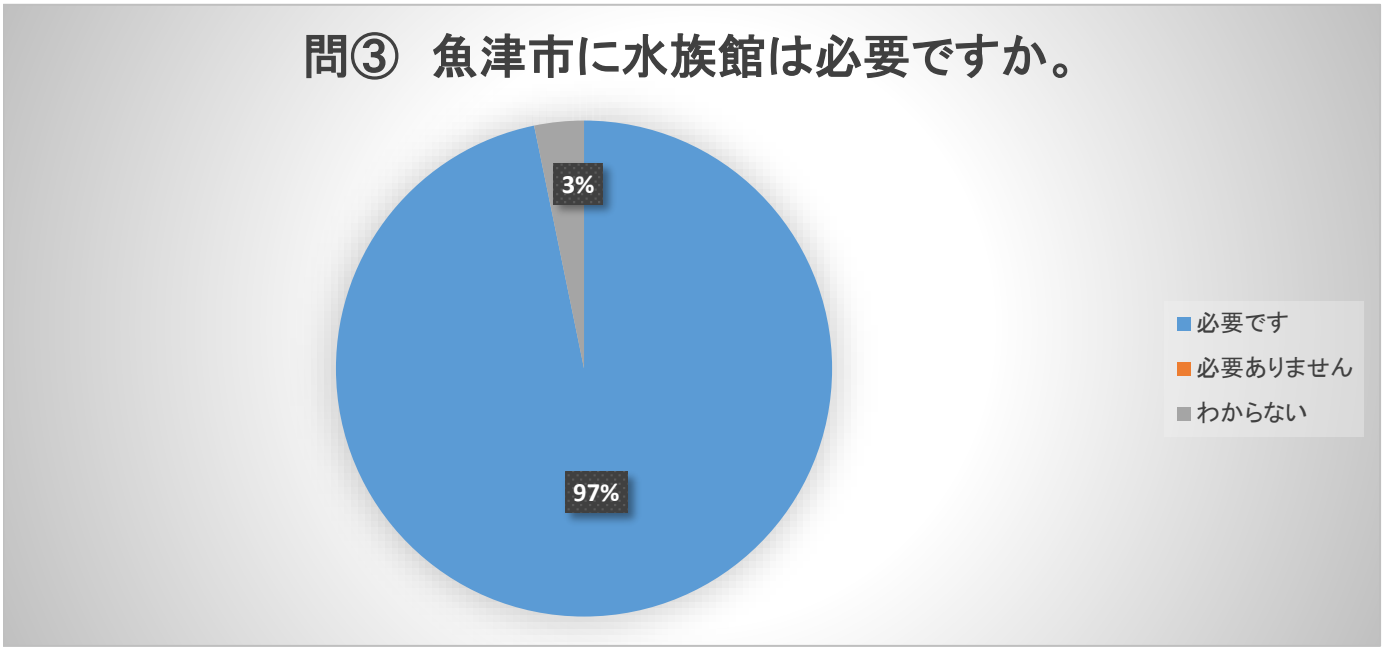
今後も、魚津水族館の理想の未来予想図を考えてまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

問①　パネルディスカッションの際に聞いてみたいことはありますか？

・これからの水族館に関するご質問
今後の水族館は、国の保護（助成）を受けて教育するべきであり、多くの人が目を向けてくれるよう考える必要があると思うがどうか。
地方都市での持続可能な水族館のイメージは？
10年後、100年後の魚津水族館は？
魚津水族館職員は、どのような水族館を目指しているか。
財源確保、人材（スポンサー）確保のシステムで、国内に良い見本はあるか。
持続可能な水族館のために、少しずつでも行動にうつしていけたらと思うが、まず何から始めたらよいか。
魚津水族館存続のため、市民及びサポーターが取り組まなければならないことは何か。
・水族館建設に関するご質問
老朽化しているが、今後建て替えの予定はあるか。
新しい水族館構想は進んでいるのか。市当局の取組みは？
新しい水族館は敷地や予算はどうするのか。
・水族館施設について
複合商業施設を誘致して水族館、埋没林館、海の駅やフードコートを取り入れた施設はどうか。
新しい水族館を作るとしたら、一番こだわるものは何か。
・資金面に関するご質問
入館料だけで成り立つ水族館はあるのか。
建設費、維持費等多額だが、持続可能なのか。
現在の収支は？
お金を集めるプロとはどんな人？
日本には寄附文化はほぼなく、寄付に対して対価を求めることが多い。寄附を募る際、どのように取組めばよいか。
水族館を建設するにはいくらかかるか。
水族館運営費に税金を使用することについて、どのように考えるか。
・展示に関するご質問
「映え」を求めすぎた水族館について、どのように考えるか。

北アルプス→川→海を一体のジオラマで生態系を表現したらどうか。
生産性、持続性があり、展示・研究にとっても陸上養殖がキーワードと考えるがどうか。
これまでで自分の夢に最も近づいた（実現できた）企画はあるか。
魚津水族館職員は、どんな展示を目指しているか。
2023年はどのようなイベントを予定しているか。
展示を終えた生物はどのように処理するのか。魚塚などあるのか。地域により違いがあるのか。
・魚津水族館の魅力に関するご質問
他にはない魚津水族館の魅力は何か。
パネリストが魚津にあればいいと思う水族館はどのようなものか。
魚津水族館に足りないものは何か。
魚津市民はいつ、どのような時に水族館を利用すればよいのか。
埋没林館など地元の他館とのコラボがあればいいがどうか。
・海の環境に関するご質問
将来も豊かな海であるために、海を守ることと商業をどう共立させているか。
多様な生態系を今後も残していくために、何が大事か。
温暖化に伴い、魚の生息状況はどのように変わるか。
来館者に、魚津水族館をきっかけとして、県内の海をどのように楽しんでもらいたいか。
・その他
サポーターの発表にあったが、山の工事について配慮すべきことは何か。
内陸部か山間地で海洋生物の展示場を作ることについて、リスクはあるか。国内、海外でそのような設備はあるか。
キュレーターの業務内容とその時間割合について。
モントレー水族館について。中国の水族館について。





問④　問③で「必要」と回答した方、今後どのような水族館があればよいですか。

・ワクワク感の高揚に関するご意見

魚も来館者も職員も生き生きとした水族館
レクリエーション機能の充実
五感で体験し、居心地が良い
海や魚に興味のない人も学びや体験を通して満足できる
魚の命が輝き来館者が笑顔になる
何度行っても新しい楽しみ方ができる
進化し続ける
魚の育成参加

・子供に関するご意見

未来ある子供が多く来館
子供が興味を持てる展示
安心、安全に地元の豊かな自然を子供に経験させられる
魚津の海や川で遊ぶ
低学年対象に海、気象、自然を学べる

・不破学芸員の発表内容に賛同するご意見

VRで富山湾の各海域の特長を疑似体験
アウトドア、マリンスポーツと一緒に楽しめる
コストコ型で展示変更が可能
環境保全、人材育成

・機能性に関するご意見

水槽で魚が見られるグランピング施設
富山の自然とふれあい学習できる
富山の生物のすばらしさを伝える
自然界の危険を伝える
県民に親しまれる
県に一つなので、施設の拡大、滞在型の憩いのスペース
地元の人が何度も行きたくなる
持続可能となるよう地域貢献し、地域経済も活性化する
イルカショーやペンギンショーでなく、生物本来の姿を見られる
テーマパーク型
エンターテイメントを取り入れる

おしゃれで楽しい場所
都会に負けないように
子供が研究活動できるよう50人程度の研修室
潜水体験ができる
観光資源
ツアーガイドが常駐し、ショーの一つとする
学べる施設
魚と海洋汚染について理解できる
広めのジオトープ
水中にいるような場所
周りにレストラン２種類、農産物・果物販売所
物販・飲食が充実し、入館料のみに捉われない経営体制
魚を見る以外の目的を作る
ミュージアムショップの他館との差別化
屋外展示、ＷＳなど、みらパークと連携して魚津・富山の魅力を発信する
公園を広くし、憩える場所の中に設置
エレベーターの設置等、バリアフリー化
東京ビックサイトのように床下にマルチ配管と電源があればユニット化できて幅が広がる
パビリオン型とユニット化とのハイブリッドで木造
魚津全体の魅力向上につながるもの
学校との連携を続ける
陸から海につながるよう建設

・入館料

気軽に行けるよう値下げしてほしい
祖父母は子供料金にしてほしい

・調査研究活動に関するご意見

普及活動、研究活動をさらに充実

・整備資金に関するご意見

寄付についてさらに工夫を
県民だけでなく国内外に目を向けると、寄付が増えるのでは
クラウドファンディング
現在のように維持費が高額にならないように

・展示に関するご意見

「富山ならでは」のテーマで特徴ある展示
調査研究に基づく地元水生生物を重視した展示
魚の環境（水）を守りたいと見える展示
生物の生態を知ることができる展示
命、成長、共存を感じられる展示
スタッフと気軽に話ができる
アップデートしやすい
「北アルプスの渓流から日本海の深海まで」に合わないのでジャングルコーナーやサンゴは不要
　代わりに県内で見られる水生生物や水生昆虫（ミズカマキリやゲンゴロウ）を展示
魚の生態のほか、体の構造や料理に使う魚を紹介し、魚について総合的に知れる
県内唯一なので、氷見寒ブリ、白エビ、ホタルイカも魚津水族館のマークをもって展示する
深海やリュウグウノツカイにスポットをあてた食とのつながり
全国の珍しい魚を紹介する
浅いプールで海を再現し、生き物とふれあう
来館者が展示に参加できる
外でも見える展示
日本海、富山湾の魚をメインに、それ以外は企画展で展示
アザラシ、ペンギンに触れたりショーをしたり、一緒に写真撮影
海、川の資源を将来も食べていくための展示

・その他

手を広げて中途半端にならないよう、身の丈にあったもので
ファミリーパーク、県植物園と連携し、バックヤードや医療機能を共有し、運営を効率化する
気軽に行きやすい
１人でも行きやすい
友人、知人を連れて行ける
仕事に疲れたら休みに行ける
用がなくても何度も行きたくなる
親と→遠足→デート→子供と　幅広い年代に身近な存在
真っ暗な部屋に発光生物やクラゲを展示し、泣ける曲をかけるイベント
今のままで十分
基調講演講師の大山さんおすすめの水族館